

「低ホスファターゼ症が疑われる症例の検討」に関する研究のお知らせ

ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年7月24日 ～ 2025年3月31日

〔研究課題〕 低ホスファターゼ症が疑われる患者の単施設における検討

〔研究目的〕 低ホスファターゼ症(HPP)は、遺伝性の病気で非常に稀な病気です。強く健康な骨を作るために必要な酵素(ALP)の働きが悪くなったり、働かなくなったりするため、骨や筋肉、関節、歯など身体の様々な部分に症状が現れます。大人ではしばしば骨粗鬆症や慢性疼痛など他の病気と誤診されることがあります。そこで本研究では、当院通院中の成人患者さんで HPP が疑われる人がどのくらいいるのかを調査します。

〔研究意義〕 高 ALP 血症と比較して、低 ALP 血症の病的な意味を問われることは多くありませんでした。しかし、低 ALP 血症は HPP を疑う重要な検査結果のひとつになります。そこで、当院において実施された血清 ALP 検査のうち、低 ALP 血症を示す患者さんがどのくらいいるのかを調査します。またそのうち、実際に HPP が強く疑われる患者さんがどのくらいいるのかを評価することにより、未診断の成人型 HPP の有病率を把握するのに有用な情報を得ることができます。

〔対象・研究方法〕 2021年4月1日～2022年12月31日の期間に当院において測定された血清 ALP 値(IFCC法)全件を対象とします。血清 ALP 30 IU/L 未満が2回以上認められた患者さんのうち、低 ALP 血症の原因となりうる他の明らかな疾患や病態がある人を除外した後に残った人が HPP 疑いとなります。定期通院中の患者さんで HPP が疑われる場合には担当医から追加検査の必要性について説明があります。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター第三内科(内分泌代謝内科)

〔個人情報の取り扱い〕

研究に用いる情報は個人情報が分からない様に加工された状態で使用するため、個人が特定されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：井上 大輔 病院長・教授

研究分担者：井上 玲子 講師

所属：帝京大学ちば総合医療センター第三内科(内分泌代謝内科)

住所：市原市姉崎3426-3 TEL:0436-62-1211 (代表) [内線 2011]